

中8日の岐阜が中2日の対戦相手になす術もなし...。  
 岐阜0-2福岡【第3節】

F C岐阜は長良川で福岡と対戦し0対2で敗戦。目標の10位進出が遠のいた。残り試合はあと2。悔いなき戦いを。F C岐阜頑張れ！（ハマッチ）

何度、同じことを繰り返すのだろう。まるで鳥栖戦のリプレーを見るかのような低調な内容の試合。無得点のまま歯止めのきかない4連敗となった。

10分、福岡永里に決められ失点を喫するが、これもDF陣が集中していたと言い難く、鳥栖戦と同じパターンでやられている。福岡は確かに「昇格」のドアに片手をかけているため、勢いはあったのだろうが、これは防げた失点だったはずだ。そして、「1点を追わなければならないのに」無駄なDFラインや中盤の低い位置でのパス回しを繰り返すばかり。相手に帰陣する時間は与え、素早いプレスの網にはかかり、一体どれだけシュートまでつながったと言うのか？ポゼッションでは福岡を上回ったかもしれないが、それではサッカーは勝てない。もちろんどういった戦術を監督から指示されているのかは分からないが、1本縦に入れるとか、ミドルを打つとか、全く「怖さのない攻撃」ではラインを上げられるし、攻勢に拍車がかかるだけだ。スコアは0-1だったが、こんなサッカーしては勝てないな、と後半途中からは思い始めてしまった。案の定、後半26分には再び永里に「とどめ」とも言える2点目を謙譲し、決着はついた。

結局のところ「昇格」という目の前にある現実的で明確な目標があった福岡と、「ひとケタ順位」とは言いつつも、不明瞭なFC岐阜。その差が現れてしまったのではないか。しかし、帰りながらこんな事も考えた。例えば、プレミアリーグでは、ウォルバーハンプトンのようなクラブが、例え2部降格が決定していたとしても、ホームでは優勝争いを行っているアーセナルを食ったりするのだ。イングランドでは、ホームチームは「キックオフから1点リードしている」という言葉があるほど、ホームチームの優位性は言われているし、マイナークラブでも4万人規模のキャパのスタジアムが毎試合満員になる。選手は例え降格が決まっていようと、無様な試合は見せられない訳だ。

確かに、FC岐阜はいま負の連鎖に陥っているかもしれないが、こういう時こそ選手を信じ、鼓舞して、メドウを「要塞」としななければならないのではないだろうか。まだJリーグは創設してから18年目。歴史を築き上げていくのは全て自分たち次第だ。次節、栃木もこのところは連敗中。終わりよければ、とはいかないが、何とかホーム最終戦を締めて「有終の美」を飾ってほしい。

(中二からまともな風邪を引いたことがない男、皆さん風邪に気をつけて)

鳥栖戦はスカパー観戦で「ダメだこりゃ...」でした。福岡戦は生観戦でしたが「論外」でした。

一言で言っちゃえば「バカ正直なサッカー」ですね。今の岐阜は、押谷と嶋田をケアしてスペース与えなければ失点どころかピンチすらこないんですから相手さんは楽だったと思いますよ。それでいて攻め方は押谷への縦一辺倒ですもん。守備と連動する攻撃が全然ダメです。こう守り、こう奪い、奪ったらこう展開するのルーチンが出来てないのか理解出来てないのか。どちらにせよ、「壊れてる」と言わざるを得ません。残念ながら今の岐阜では遅攻で崩すのは難しいです。従って速攻を重視する選択は間違ってます。ただ速攻のパターンを増やさない限りはこのままでしょう。ホーム最終戦なのでいい内容で終わらせたいのですが...。(ジュニア)

いったい、どうしちゃったんだろうね？いや、こんなもんだよ、とは思いたくない。それでも、ツラくサビイ内容の試合が続いてしまった。とうとう今季初の4連敗。それも、アディショナル・タイムまでもつれこんだ横浜戦や、先制されるまではもちろんそれ以降も粘りを見せてくれた柏戦と比べ、ここ2試合はかなり残念。それとも、鳥栖のFWC「ボーッとしてくれて助かりました」と評された開始5分の失点からすれば、福岡の猛攻をさらに5分近く凌いだことを賞賛した方がいいのかな？そんなワケないよね(苦笑)。

失点後の前半途中からは相手にシュートもほとんど撃たせず、決定機を何度も作った鳥栖戦の方がまだマシだった。結局、鳥栖と福岡の勢いの差なんだろうか？この終盤に来て、相手に研究されてきたことも苦戦の要因には違いない。しかし、それならウチも組織としての連動や仲間の特徴を把握したコンビネーションも習熟していいはず。そう思うのは過剰な期待なのかな？終了間際、セット・プレイからの2次攻撃。左サイドでボールを受けた選手を相手がマーク。利き足でのクロスを上げるコースを消された彼が、選択したのは裏へのパス。だが、そこに走りこむ選手はいない。逆の足で蹴ることの少ない彼のスタイルをわかっていないはずもないんだが.....。

まあ、それはともかく、今季はまだ2試合残っている。「終わりよければ、すべてよし」とは思わないが、ホームの最終戦は絶対勝ちたい。このメンバーで行う、メドウでのラスト・ゲーム。必ず、笑顔で締めくくりましょう。そのためにも、今日は今季一番の声援を贈ります！（ぐん、）

福岡戦のレポートは裏面に続きます。



岐大通  
2010

today's guest

栃木SC

2009 J2第17位  
 J2通算対戦成績:1勝1分2敗

- 2009成績  
 第0節 09/03/08 栃木0-1岐阜  
 第3節 09/08/05 岐阜1-1栃木  
 第4節 09/09/23 栃木2-1岐阜  
 2010成績  
 第1節 10/05/30 栃木2-0岐阜

おわび  
 前節(福岡戦)でお配りした内容に間違いがありました。  
 第4節 09/10/21 福岡0-1岐阜  
 は  
 第4節 09/10/21 福岡1-0岐阜  
 が正當です。  
 お詫びして訂正致します。

2010J2 順位表 第3節

(#は消化試合が1多い)  
 勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	柏	76p	+43	66	23	H	A
2	甲府	68p	+31	69	38	H	
3	福岡	65p	+28	61	33	A	H
4	千葉	57p	+20	56	36	A	H
#5	東京V	55p	+11	44	33	H	A
6	横浜FC	53p	+8	52	44	A	H
7	熊本	51p	-3	36	39	A	H
8	鳥栖	50p	+2	41	39	A	H
9	栃木	47p	+5	42	37	A	
10	徳島	47p	+3	49	46	A	H
11	愛媛	47p	+1	31	30	H	A
12	草津	45p	-9	35	44	H	A
13	札幌	42p	-5	33	38	H	A
14	岐阜	41p	-15	28	43	---	---
15	大分	39p	-10	37	47	A	H
16	水戸	37p	-14	26	40	H	A
17	岡山	31p	-23	25	48	H	A
18	富山	27p	-31	36	67	H	A
#19	北九州	15p	-42	20	62	A	H

F C岐阜大好き通信(岐大通)  
 11/28号  
 編集発行:『岐大通』製作委員会  
 今号の製作担当: ささたく & 吉田 鑄造

編集子より  
 ご愛顧いただきありがとうございます。  
 今シーズンは2年ぶりに「全ホームゲーム」での発行を遂行することが出来ました。

福岡戦レポートの続きです。

あまりにも情けない内容で、試合が終わってもブーイングする気すらおきなかった。工夫のない攻撃と守備の連携ミス...中には来期の契約云々も絡んでいるのが明らかに試合中に集中力を欠いている選手もいた久しぶりに試合を見に来ていた友人が「これではお客さん増えないね」って辛辣な一言を残して帰って行ったのがすごく耳に残っている。

今日はいよいよホーム最終戦。もうこのメンバーで戦えるのも2試合だけ。悔いのないように戦え！内容は問わない、欲しいのは結果だ！（岐阜の誇り）

試合開始前に嬉しいサプライズ。今まで空いていた背中のスポンサーに鈴木栄光堂さんが名乗りを上げてくれた。これでユニフォームすべての部分にスポンサーが入り、クラブとして初めての記念すべき日だ。この不景気な中、スポンサーの皆さんには心から感謝したい。

さて、今節の対戦相手はJ昇格に王手をかけている福岡。勝利への執念は相当なものだと思うが、ここは僕らのホーム。アウェイの柏戦では残念ながら「お見送り」をする羽目になったが、今日は何としても阻止したい。現在ホーム連敗中だし、目標の10位を達成するためにも、どうしても勝たなければならぬ試合。背中にまでスポンサーが入り、黒字達成にあと僅かとすれば、なおさらだ。厳しい試合になると思うが、8日間の休養ができた岐阜に対し、福岡は中2日の強行日程でアウェイに乗り込んできている。気持ちと運動量で負けなければ勝てる...と、（少なくとも僕は）試合開始前に思っていた。

ところが、だ。試合開始から福岡の猛攻を受け、防戦一方。わずか10分の間に決定機を2回も作られ、最後はGKからのボールを押し込まれて早々に失点。前節の鳥栖戦と同様、立ち上がり集中を欠いて失点とは...前節の心痛い反省が何も活かされていない（ようにしか思えない）展開に僕は呆然としたし、スタジアム全体も呆然とした雰囲気だったと思う。歓喜に沸き立つ福岡サポを除いては、その後も福岡は攻め続け、一方の岐阜は（風下だったことも影響しているとは思っただけ）相変わらず、前線でタメが作れなかったり効果的なパスが出せなかったりするため、攻撃の形がうまく作れない。この流れのまま、福岡は8本のシュートを撃ったのに対し、岐阜はシュート1本で終わる。

後半、風上に立った岐阜は敵陣内に攻め込むが、引いて守る福岡のゴールを割ることができない。押谷が負傷交代すると、攻撃のキーマンを失い、再び盛り返してきた福岡に押し込まれるようになる。すると、またもゴール前でチェックが甘い瞬間を狙われて追加点を許してしまう。再び呆然とするスタジアム。再び沸き立つ福岡サポ。その後、岐阜は洗一と永芳を投入して得点を狙うが、決定機を作る事もできない。ロスタイムにはあわや3失点目かというピンチをゴールポストに救われ、0-2で試合終了。これで岐阜は14位になり、ホーム3連敗、4連敗、無得点4試合。（時間差はあったが）千葉が負けたため、福岡はJへの昇格が決定。今期2回目のいわゆる「お見送り」という結果になってしまった。また、残り2試合の結果で想定される順位は12位~16位。今期チーム目標だった「10位以内達成」は不可能となった。

正直、「これは酷い」と思った前節の鳥栖戦よりも、酷い試合だと感じた。確かに昇格が懸かった勢いのある福岡と、中位の鳥栖を比べてはいけないうちかもしれない。しかし、福岡は中2日で疲労も抜けていない状態だった訳で、それにも関わらず、チーム一丸となって勝利への執念をむき出しにして、運動量と気迫とで岐阜を上回っていたと思う。一方、岐阜は（確かに現状の状況ではモチベーションの維持が難しいのは認めるけれど）気持ちの面で「勝ちたい」というメッセージが見えなかった（と思う）。個々の選手としては頑張っているのかもしれないが、チーム全体で必死で走っている様に見えないし、ボールを持った味方が囲まれているのにフォローに行かない場面が多いように感じられた。守備に関しても、逆サイドがガラガラなのでサイドチェンジされると致命的だし、ゴール前でボールを見てしまっている選手もいる。これ

では、勝つのは難しいだろう。

もちろん、チームの実力からしたら、常に勝てる訳でもない事は、岐阜サポなら誰でも分かっていると思う。でも、チームとして「勝ちたい」という気持ちを見せて貰うことはできると思うし、最後までひたむきに走る姿を見せて貰うことはできるはずだ。あと残り2戦。初心に戻って、まずは気持ちを、そして得点を、更には勝利を是非とも掴み取ってほしい。さて、今節は遂にホーム最終戦。しかも相手は今年2連敗している栃木。もう負けたくない。勝って最後を終わりたい。そのために僕らが出来ること。それは、選手達を信じて、勝利を信じて、スタジアムが一体となって声援を送り続けること。そして、ホーム最終戦を笑って終わりたい。

（ささたく）

メインスタンドのお客さんから怒りはあまり感じなかった。鳥栖戦より厳しいヤジが飛んでいた...というのはある。試合中は、主審の判定などにも大声で文句が飛んで殺伐とした雰囲気はあった。けど、そんな試合中の光景より、終了した時に近くにいたお爺ちゃんがお孫さんらしき少年に「来年だね、来年またがんばろうね」というようなことを話しかけていたのが印象に残っている。

「今年のFC岐阜は、ここが限界なのだ」という思いが濃くなる試合だった。対戦相手のアビスパ福岡は、J昇格を本当にすぐ近くまで引き寄せていた。前節で千葉がアディショナル・タイムに勝ち越しゴールを決めなければ、このメドウでの岐阜戦に勝った瞬間に昇格が決まるところまで来ていた。そんなアビスパからは、「アタマからガーンと行って、前半15分までに1点取ってしまおう、あとは落ち着いて試合を制御していけばいい」というプランが感じられた。そして、そのプラン通りに10分で先制して、そのままキチンとアビスパが試合を制御したままで終了した。これは、いまのFC岐阜は『恐くない』ということの意味する。同じ試合を観戦していた仲間は「もう完全に相手に吞まれていたね」と言った。J'sGoalでは試合後にライターさんが「危機感を持った」と書いていたが、この試合のメインスタンドで終了後にぼくが感じたことは、前出のお爺ちゃんの一言が象徴していた。

『危機感』ではない。『諦め』だ。そりゃリーグ戦なんて勝った負けたの繰り返しだ。でも、負けた試合でも精一杯「戦っている」姿を見ることで、サポやお客さんは「次」を視ることが出来る。その「次」が見えなくなっている。あまりに悲しい光景だった。（吉田铸造）

## 【ユース】 岐阜ユース、今季の公式戦を終了。

我らがFC岐阜ユースU-18(以下岐阜ユース)は11月21日(日)にJユースカップの予選リーグ最終戦であるジュビロ磐田ユースU-18(以下磐田ユース)との試合をアウェーで戦いました。公式HPによると、前半岐阜ユースが2点先取「！」しましたが、その後は地力に勝る磐田ユースに試合の主導権を握られ続け、結果的には2対5で敗戦し、今年の公式戦を終える事となりました。

23日の福岡戦の際、いつも通り試合運営に汗を流す彼らがいきました。彼らが笑顔で試合の報告をしに来てくれた事が、自分にとっては最上の喜びでした。来年はまず県リーグでのG2への昇格だね。ブッチギリで勝ち抜いてくれよ。君達はもっともっと上のステージを目指さなくてはいけないのだから。そして来年のJユースカップでは更に成長した君達の姿を見れる事を信じています。

最後に今年岐阜ユースには3人の3年生がいました。彼らが今後どのような道を進んで行くのかは私にはわかりません。でも、一緒に汗を流してきたチームメイトとの事を忘れず、たまにはFC岐阜の試合を観戦・応援に来て欲しい。グリーンズ参加も大歓迎！（笑）（シュナ）

# 今季のベストゲーム・ ベストゴール・MVPは？

## ベストゲーム

### 第2節（ホーム） 岐阜1-0千葉

試合の90分だけを見れば、ワンチャンスを生かして先制し、なんとか逃げ切った試合にしかすぎないかもしれない。しかしこの試合の本当の価値は、試合時間半前にあった。サポーターはその時間、いつものように選手バスを迎えるためメドウの正門に三々五々と集まってきた。しかし、この日は何故かアウェイの千葉サポもかなりの人数が正門に集まり、東西に分かれて対峙する形になった。決して殺伐とした雰囲気はなかったが、自然発生的にその場はチャント合戦となり、それは選手バス到着を機にピークに達した。正直言ってサポ同士のチャント合戦は千葉の圧勝と言ってもよかったと思う。その圧倒的な声量、統一感のあるタオマフ回し。悔しいけど格好いいの一言。岐阜サポも精一杯頑張っていたが、いかんせんオリジナルメンバークラブの歴史の前では歯が立たなかった。ただその場に居合わせたサポや遠巻きに見ていたライトなファンにとって、この体験は熱くそして嬉しいものだったと思う。「チームをサポートする」とはどういうものかを実体験できたとてもいい機会になったのではないだろうか。そしてそれは、チャント合戦の中バスから降りてきた選手たちにも伝わったのだと思う。試合1時間半前のこのできごとがあったからこそ、試合の90分の中で選手とサポが一体となって熱く戦い、強豪ジェフを打ち破れたんだと思う。（cruyff）

### 第0節（ホーム） 岐阜2-富山

何事も最初が肝心。後手に回ったものの集中力を切らさずよく逆転してくれたと思います。あきらめないことこそがFC岐阜の真骨頂でしょう。シーズンも最終盤で今日の試合ではどうでしょうか？（ST57）

### 第2節（ホーム） 岐阜2-徳島

「完勝」という意味では4/札幌戦か9/23大分戦、「昨年天皇杯の再現」という点では8/22千葉戦なのですが...「長良川（メドウ）劇場」という点で、先制されたけれど逆転勝ちした10/3徳島戦をベストゲームに推します。（ささたく）逆転劇というのは、どうしても印象に残ってしまう。失点の仕方はヒドかったけど（苦笑）、同点弾は決まった時間帯も攻め込んだ流れも人数も迫力十分。決勝ゴールも鮮やかだった。（ぐん、）

生観戦ではホーム札幌戦。スカパー込みならホーム大分戦ではないでしょうか。この2試合くらいしか安心して観れる試合はなかったような気がします。（ジュニア）

## ベストゴール

### 押谷祐樹：第2節（ホーム）岐阜2-0大分の2点目

右サイド深くに野垣内がボールを持ち込んだところから、この攻撃は始まった。野垣内が近寄ってきた和範にはたくと和範はワンタッチで縦のスペースへボールを出す。このボールに優大が走りこむ。嶋田がニアヘフリーランをしてDFを引っ張ったことでできたスペースへ優大がダイレクトでグラウンダーのパスを送ると、そこへ走りこんできたのは押谷。右足を一閃するとわずかに弧を描いたシュートはゴール右隅に決まった。複数のプレイヤーが有機的にからみ、しかもパスはすべてワンタッチ。こんなにも美しいゴールをFC岐阜が生み出せたなんて...あまりの鮮やかさにバモスゾーンの反応が一瞬遅れたことも付け加えておこう。

おそらくこのゴールは、チームの歴史の中でも語り継がれるゴールになるだろう。（cruyff）

第3節・アウェー岡山戦の1点目にも度肝を抜かれたけど、やっぱりゴールに至るパスのつながりが美しすぎる第2節・大分トリニータ戦の押谷の2点目が今季のベスト・ゴールで決まり！（ぐん、）

現場で見られなかったので残念ですが、2節ホーム大分戦での押谷の2点目のゴールです。とてもFC岐阜のゴールとは思えないような（笑）きれいな展開からのゴールでした。

（岐阜の誇り）

野垣内 菅 西川 押谷の見事な連携でのゴール。しかも押谷のバースデーゴールでした。（ささたく）

理由は岐阜には珍しい？運動した動きの中でダイレクトでテンポの速いパス回しから目の醒めるようなシュート！何気にショーゴ君が絡んでます。（競輪場おやじ軍団のやまちゃん）

野垣内俊：第1節（ホーム）岐阜1-0岡山の決勝点大分戦の押谷2点目と迷いましたが.....。普段の岐阜では見られなかった、左SBが切れ込み右SBが詰めて決めるってチーム全体で運動出来た部分を評価します。（ジュニア）

嶋田正吾：第1節（ホーム）岐阜1-0水戸の決勝点「相手Gをあざ笑うかのような」というほど嶋田に余裕は感じられなかったが落ち着いてシュートを放ったその先にはまだ僕の視界にはいっていなかったゴールマウスがはっきり想像できました。（ST57）

田中秀人：第1節（ホーム）岐阜2-草津の2点目やはり草津戦の田中シュート選手の無回転シュートによるゴールではないですか。このシュートシーンが動画投稿サイトにも登場したことから、このゴールの素晴らしさがわかります。（緑の小太鼓）

佐藤洸一：第0節（アウェー）福岡0-2岐阜の2点目テレビ観戦でアウェー戦で...のゴールを敢えて挙げたのは、このゴールが今シーズンで唯一の『セットプレー』らしいゴールだと思うから。（吉田鎊造）

## MVP

### 押谷祐樹

「切れやすい問題児が一皮むけたら、切れ味抜群のアタッカーになっていた」。狼のように相手ボールホルダーにプレスを仕掛けボールを奪うと、背筋をピンと伸ばした美しい姿でドリブルを仕掛け、そしてゴールを陥れる。今シーズンFC岐阜の攻撃は、そのほぼすべてを押谷に委ねていたと言ってもいいのでは。（cruyff）

これは文句なしに押谷選手で決まりでしょう。左のサイドハーフ、あるいは1.5列目あたりに配置されるようになって彼のプレースタイルが広がっているような気がします。FWでゴールを背にしてボールを受けるより、サイドでボールを受けてドリブルで切り込んでいくプレーがすごく向いている感じがします。ロンドン五輪の代表を是非狙ってもらいたいし、その時の所属はFC岐阜ということで（笑）。（岐阜の誇り）文句なしに押谷。チーム内得点王である彼の活躍なしには今年のFC岐阜は語れないと思う。ロンドン五輪だって視野に入ってる選手。レンタル移籍なので、来期も残って欲しいけれど...。（ささたく）

### 吉本一謙

押谷が吉本...になってしまいますね。プロパーの選手の名前挙げられないのがもどかしいですが。

チームコンセプト上で絶対外せないであろうキーマンの2名でしたが、よりベースの守備で貢献をした吉本に一票でお願いします。（ジュニア）

試合を盛り上げるのは、そして勝利に結びつけるのはゴール。そうわかっている、あえて今季の岐阜を支えた守備の要・吉本を今季のMVPに推します！献身的な守備に何度も助けられました。

とりあえず、吉本も押谷も岐阜に家買っちゃえ！（ぐん、）

### 西川優大

たしか全試合出場でしたよね。MFとして確実に成長してチャンスメイクをしている。もう少し得点がほしいけど。

（競輪場おやじ軍団のやまちゃん）

倉田監督のコンバートで（唯一の）大当たりだったと思う。ホントに視野が広がった。ベストゴールに挙げるひとが多い大分戦の押谷のゴールも、西川の成長あってこそそのラストパスあってこそ、ということ。（吉田鎊造）

## 今季の、そして来季のFC岐阜へ。

流出した戦力を補うこともできないまま迎えたシーズンとしては、よくやったと言うべきかもしれない。新監督の新しいコンセプトを把握するのは大変だったろうし、新しいポジションに慣れるのにも時間は必要だったろう。そんな中で、ホームでは悪くない成績を上げたと言えなくもない。それでも、シーズンが進むに連れて期待感がややもすれば薄れていったように思う。それは「ベストメンバー」で試合に臨んでいないんじゃないの？という疑念が拭えなかったからだ。発展途上とはいえ、今季の目標は一桁順位。残念ながら、上位クラブと比較し個々の能力に差がある以上、組織としての成熟は欠かせない要件。それなのに、シーズンが深まるにつれ、不慣れなポジション、極端に言えば行き当たりばったりな起用が増えたのはなぜなのか？岐阜のような限られた戦力しかないクラブは、その戦力を有効に使い組織的に戦いに臨まなければならないんじゃないか。試合に勝敗は付き物。だから、負けるのは仕方がないが、それでもベストは尽くしてほしい。

まあ、コレもボクの主観なんだろう。これがベストメンですと言われれば、それまでだ。もちろん、監督をはじめスタッフの立場は理解できる。限られた期間で要求以上の結果を出さなければ、自分のキャリアに響いてくる。どこかのクラブのように、実績も経験もないのに元大看板の選手だったというだけで、三顧の礼を以て監督として迎えるなんてことはめったにない。そんなギリギリの立場であるからこそ、少なくとも自身の信念に基づいたチームにしようという気持ち。そういう確固たる意志があるからこそ、監督という任務が務まるんだと思っている。

一介のサポーターには、中で何があったのか、何もなかったのかは知る由もないし、知る必要もない。ただ、来季がどんなメンバーになるのかわからないが、組織として調整や修正ができる力も培ってほしいと切に願う。(ぐん、)

今期のFC岐阜のスローガンは「前進し続けること」でした。選手たちやサポーターも『前進』はしたと思いますが、その『前進』するスピードや方向が違ったのではないかなど。今期は長良川球技メドウというピッチと客席が近い会場でしたが、選手たちがやりたいサッカーとサポーターたちが見たいサッカーには距離があったように思います。

負けた試合での選手たちのコメントで、前向きにとらえたコメントが今期後半に見られましたが、そのコメントに違和感を感じたというサポーターが周りに何人もいました。実際、その次の試合でよくなったかという...。もちろん、今期終盤には怪我や累積警告で日替わりスタメンで積み上げが上手くいかないという事もありました。しかし、サポーターが一番見たいと感じた「走る」や「仕掛ける」、「シュートする」といった積極性が感じられないと不満をあげるブーイングも出ました。実際、今西社長がいつだったかのメドウでの挨拶で「ひたむきさがたりないとお叱りをうけました。」と言っていましたし。

もちろん、やるのと見るのとでは感じ方が違うのは当然ですが、今の選手たちはあくまでも勝つための『手段』である戦術をこなす事を目的としていて、サッカーの一番の基本である「シュート」や「仕掛け」や「走る」といったことが二の次になっているようにしか見えません。これは、やっている方にはそこそこ充実感があるかもしれませんが、戦術を完全にこなしたら、それなりの結果が出るのかも知れません。しかし、見に来ているサポーターにその間は負けを覚悟し、つまらないかも知れないが我慢しろとなってはつらいです。

いや、サポーターも希望が見えるなら我慢もできる場合もありますが、いわゆるファンにはこれはつらいです。聞いたところによると、先の福岡戦の終了後、隣の県のJチームを見に行ったほうがよかったねといった会話をきいたといひます。(緑の小太鼓)

今年はなんだか勝ってもスッキリとした勝ちが少なかったような気がする。どっしりと構えて見られたのは、5節のホーム札幌戦ぐらいじゃなかったかと。あとやっぱり最後までひたむきなプレーを見られることが少なかった気がする。厳しい言い方をしようだが、昨年新卒の選手が多く入団してその中でそこそこやれたことで気の緩みというか慢心みたいなものがあつたのではないだろうか？あと来年は厳しい予算で苦しいかもしれないが、是非トレーニングコーチ or フィジカルコーチを招聘してほしい。今年のチームは全体的に走れていない感じがしたし、他のチームと比較してみてもフィジカル面が弱いような気がする。現在はセルジオコーチがGコーチと兼務しているが、もともとGコーチのセルジオ氏にその役目を担ってもらうのはいささか気の毒のような気がする。それから倉田監督へ。貴方の今年採用したゾーンディフェンス、失点率は下がってそれなりに効果はあつたのかも知れないが完全には浸透しきれなかったような気がします。選手全体がディフェンスをこなすのに精一杯のような感じで攻撃にまであまり手が回らなかった気がします。はっきり言って見ていてつまらなかったです。それから、(特に敗れた時の)記者会見でクラブハウスやらバス移動やら環境面云々のことを嘆いていらっしたようだが、そんなことは監督に契約する以前の契約交渉の段階で十分理解できていたはず。だからこそそういう場でその事を口にされるのは何だか言い訳じみてて見苦しいし、監督なぞやっていただきたくない。ただ監督1年目でいろいろと手探り状態で気苦労が絶えなかっただろうというのは理解できるつもりだが。

最後に今後Jを目標していくにあたって、現在のようなチーム構成では上を狙っていくのは正直苦しいと思う。予算との兼ね合いもありなかなかわつかしいことであるとは思いますが、強いキャプテンシーを持った選手や精神的柱となれる選手が必要となってくるのではないだろうか。

来年は改装された長良川競技場にホームが戻る。くどいようだが選手には最後まであきらめないひたむきなプレーを、サポーターに感動を与えられるようなサッカーを見せてもらいたい。(岐阜の誇り)

攻撃の形が最後まで作れなかったかなと思います。やはりゲームメーカーの不在でしょうね。中盤で試合をコントロールできることが出来る選手がいないと苦しい時間帯に持ちこたえられないです。

一発で局面を開けるパスを出せる選手がいませんでした。そういったことはセットプレーからの得点が少ないことにもつながります。あとDFとGとの連携の悪さですね。これはこのところ目立ってきている事ですが、実は去年から解決されていない問題だと思います。相手がそこをついてきているんですね。Gの前への守備範囲の狭さ、声出し、ハイボールの処理の甘さが目立ちました。ちょっと辛口になってしまいましたが、今年の反省を来年の飛躍につなげて欲しいですね。来年は、Jへの準備の年としてチームの戦力強化を望みたいです。それは現有選手の一層のレベルアップとともに、新しい選手を1~2名は欲しいところです。特にJを知っていてチームを引っ張っていける様な選手が不可欠でしょう。熊本を退団する藤田俊哉選手が来てくれるといいのですが(笑)。もうひとつ、サポーターとして環境面の充実を後押ししたいです。具体的にはクラブハウスを作るための署名活動や募金活動などのムーブメントを起こしていければと思います。練習場があちこち行ったり、選手が外で着替えたり、シャワーが無かったり、いつでも使えるトレーニングルームが無かったり(柏や千葉、大分の選手の体格を見たでしょ)。Jではありえないです。これではいい選手は来てくれません。出来れば岐阜県の木材を使ったログハウス風のクラブハウスなんかあったら岐阜らしくていいと思うのですが...。そして寄付などをした方の名前をどこかに記した物があれば皆で造った一体感ができると思います。

(競輪場おやじ軍団のやまちゃん)

今年のチームに一番言いたい事は、「去年のひたむきさはどこ行った!？」で、来年のチームに言いたい事は、「劣勢でも、勝ち越せる強さを身に付けてくれ!!」です。監督と戦術が変わったからなのか、一応経営危機が回避されて気が抜けたからなのか不甲斐ない結果の試合が多かったのか、昨年のような「長良川劇場」を我々サポーターに見せてほしいです。(ブラウ@翠魂)

今年が多忙で富山、甲府、徳島+数試合しか観戦していない人の感想(苦笑)を一言で言うと“守備の練習に時間をとられ攻撃の練習までできなかった”序盤は、昨年度の監督の延長線上と個々の選手の資質で戦っていただけ。中断以降、ようやく監督のサッカーが少しずつ見えてきたが、肝心の選手があまり理解できていない感じ。去年の経験値がある以上“運動量で勝負するサッカー”は出来て当然。だからより上を目指すために戦略が必要。終盤失速は昨年同様のこと、凡ミスは多々あるが内容で大崩れしていないのは収穫。

とはいえ残念なことを2つ、相手より先にボールに触れるプレー&ゴールの瞬間の喜びを共に味わう機会が少なかったこと。戦う姿勢が観客に伝わらなかった=集客につながらなかったではないか?単純な事ですが非常に難しいことですね。(ち~な)

今年もまた、ホーム最終節を迎えようとしている。いつもの事だが、シーズン終盤を迎えると「今年も早かったなあ...」としみじみ思う。今年には特に、(1ヶ月近くW杯の中断期間があったけれど)増え続けていたリーグ戦の試合数(2008年45試合 2009年55試合 2010年36試合)が減ったので、特にそう感じるのかもしれない。

さて、今年のFC岐阜について。いろいろ思うところはあるが、まずはデータを少々調べてみた。3試合を終えた今年のFC岐阜の成績は、12勝1負5分、19チーム中14位。ちなみに昨年の成績は55試合16勝2敗14分、18チーム中12位。1試合あたりの勝ち点取得率は、2010年の1.209に対して2009年は1.216と、意外なこと(苦笑)に、ほとんど変わらない。しかし、1試合あたりの得点及び失点を見てみると、2010年は0.82得点1.26失点。2009年は1.22得点1.4失点なので、2009年と比べると「失点は若干減ったが、得点は更に減ってしまった」と言うことができる。また、得失点の前半と後半の比率を比べてみると、(数値は省略するが)「2009年の方が後半に得点する傾向が強い」ことも分かる。確かに失点は嫌だが、得点が入らない試合はさらに精神的に疲れてしまう(苦笑)。後半に得点できれば、スタジアムは(負けていても)盛り上がるので、そういった部分が感覚的なものに影響していると思う。

選手構成について昨年と比較してみると、主戦力の菊池完と高木和正が抜けたという大きな違いはあるが、それ以外は残っていることを考えると、やはり、2007年からチームを率いてきた松永監督から今年には倉田監督に代わり、チーム戦術も「マンツーマン守備・ドリブルによるカウンターサッカー」から「ゾーン守備・パスによるポゼッションサッカー」へ変更したことが、大きな影響を与えていると思う。昨年までは、若い選手が(良くも悪くも)ただひたすらに走り回って、最後に走り勝つサッカーだった。それで去年は(試合数が多いこともあって)走り勝てたし、夏場は快進撃だったが、涼しくなってくると勝てない様になってきた。今年も、そうではない「大人のサッカー」を目指したが、戦術の浸透に時間がかかり、勝ち点も順位も伸びない状況にある...のだとは思っている。これから強くなるためには、こういったゾーン戦術の浸透に苦勞する時期が必要なのは、僕も分からないこともない。ただ、残念ながらFC岐阜というクラブには資金的な余裕はないはず(苦笑)だから、毎年「良いサッカー、勝つサッカー、楽しいサッカー」をしなくては、観客もスポンサーも増えず、経営的に厳しくなるというのが現実ではないだろうか。今年もキャバが圧倒的に小さいメドウが主な開催場所だった

し試合数が減ったことで観客収入が最初から厳しい状況だと分かっているから、つつい、僕はそういう事が気になってしまう(苦笑)。しかし一方で、遂にユニフォームのスポンサーが全部埋まり、さらには単年度黒字を達成しようかという経営状況は本当に嬉しいことだし、フロントや選手達の頑張りには心から「お疲れ様でした」と言いたい。黒字を達成するまで、最後まで気を抜いて欲しくはないけれど(笑)。ちょっと気になるのは、選手の(心身ともの)コンディションだ。去年の活躍で自信を持つのは一向に構わないが、油断してしまっている部分がないだろうか。また、確かに今年は「走り回るサッカー」では無いのだけれど、動きにキレのない選手がいるように思えた。そういった原因は選手個人だけの問題ではないと思うので、クラブ全体として反省し、来期に活かして欲しいと思う。

いろいろと苦言めいたことばかり並べ立ててしまったが、少しずつFC岐阜という「地域密着型クラブ」が地域に浸透し、それと共に成長してゆく実感は今年もあったし、Jリーグ屈指の安い運営資金・練習環境(苦笑)なのに最下位争いをしていないってのは十分評価すべきなのかも、とも思ったりする。もう少し、気持ち良く勝つ試合が増えてくれれば、言うことないんだけど...。来期は改装されたメモリアルに戻ってのリーグ戦となる。大型ビジョンだってあるし、(ピッチとの距離が遠くなるのは残念だけれど)新しくなったスタジアムで、FC岐阜がどんなサッカーをしてくれるのか、非常に楽しみだ。(おそらく)20チーム38試合となる来年のJ2で、継続した戦術が浸透し、進化したFC岐阜が活躍してくれることを僕は信じている。

それにしても、来年はW杯の中断期間がないんだから、今年よりも余裕がある日程な訳で...ナビスコ杯とは言わないけれど、何かカップ戦でもあると面白いかなあ...と思うのは、僕だけだろうか(苦笑)。(ささたく)

ぼくはタバコを吸わないけど、ハーフタイムや試合終了後はメドウの東端にある喫煙コーナーでサポ仲間と感想などを話し合ってた。もちろん勝ち試合の後にはクチも滑らか。でも、勝ち試合の後でぼくが何度か話した(というか「グチった」)のは、「これから全敗するんじゃないか」というモノだった。たしかに、勝つべくして勝った試合もあった。けど、それは対戦相手の不出来などで「相手が負けるべくして負けた」ようなものが多く、FC岐阜の勝利の“その先”が見えなかった。「ウチはこのサッカーで行くんだ」という手応えがなかった。現場ではあったのかもしれないけど、我々には伝わってこなかった。シーズンが進むに従って積み重なっていると思えるものが、あまりにも少なかった。

特に攻撃面に顕著だった。『コーディネート』がほとんどなかった。『セットプレー』を磨いているようにも見えなかった。結果、シーズン中盤以降は「押谷が動けるか」がすべてになり、当然だがそれはすぐに対戦相手に読まれ、彼が封じられたらすべては終わった。「全敗するんじゃないか」のイヤな予感は終盤に現実となり、そしてホーム最終戦だ。サブメンバーに関しては少々文句がある。今季は、スタメンとサブの入替はあったが、サブメンの入替がほとんどなかった。サブにも入れなかった選手の中には、シーズン序盤はスタメンだった選手もいる。コンディション不良が原因なら、そうした選手のコンディションを上げてチームの活性化を図るのは誰の仕事なのだろうか。ただでさえ資金難で潤沢な戦力があるわけではない。現有戦力を最大活用するのもチームマネジメントの重要な要素だと思うけど、どうだろう。

今季が終わると、フロントは戦力の見直しに着手するだろう。倉田さんも2年目だ。もし、今年には種を蒔いただけなら、来季はキチンと芽吹かせて成長させてほしい。今年には土を耕したただけだということなら、来季は種を蒔いて芽吹くまでには至らせてほしい。『成長している』という手応えがあれば、サポも観客も多少の負け越しで動じたりはしない。(吉田鑄造)

## 【セカンド】

来季は『東海1部』です！

当時のFC岐阜が成し得なかった東海2部リーグを1年で優勝&突破の快挙。2ND（当時はFC岐阜B）を地区リーグから追っている自分にとっては夢のような出来事。リーグ戦で勝ち負けをしながら育ていくチームや選手達を側で実感できた1年。2006年当時のTOP出場経験者はFWの松江、酒井のみ、ようやく戻ってこれました。来季は“無駄に熱い東海リーグ再び”になりそうです。（ち～な）

### 編集部注：

来季の東海リーグ1部は以下の構成で行われる予定です。  
Shizuoka 藤枝MYFC / FC刈谷 / マルヤス工業 / 鈴鹿ランポーレ / 藤枝市役所 / 矢崎バレンテ / FC岐阜セカンド（東海2部より昇格） / トヨタ蹴球団（東海2部より昇格）

## 編集人から一言。

今季はホームゲームが1試合に。再び「『岐大通』全ホームゲーム発行」に挑戦しよう！と臨んだシーズン。最後のホーム3連戦は正直言ってキツかったです（苦笑）が、なんとか目標を達成することが出来ました。これも、ひとえに読者の皆さまのご支援があったからこそと感謝しております。

来季は再びホームゲームの舞台が長良川競技場に戻ります。そして、来季J2は現在のところガイナレ鳥取の加入で20チーム36試合（ホームゲーム18試合）のシーズンになるのではないかと思います。そして来季の『岐大通』は.....毎年恒例、まだ何も決まっておりません（笑）。ぼくらがやるかどうかはわかりませんし、そもそも出るかどうかはわかりません。とりあえずは、週末の前に「わあーっ！締切だ！編集だ！印刷だ！」とひっきり返る日々からしばらくの間は解放されたいと思います（笑）。

では、もし来年も『岐大通』が発行されるのならば、長良川競技場の入口でお会いいたしましょう。1年間、ご愛読ありがとうございました。

『岐大通』制作委員会  
編集担当：吉田 鑄造  
印刷担当：ささたく



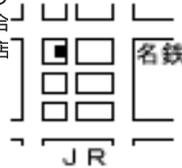
本庄工業株式会社  
<http://www.honj-woodream.com/>



何も無い店だけど...心の花が咲く...  
何も無い店だけど...心癒される...  
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目（木ノ本公園東）

「いらっやいませ」より  
「おかえりなさい」が似合  
アットホームな韓国料理店  
『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅  
から徒歩3分。  
休：日曜日  
（今日は定休日です）



# みんなの手拍子で



# 選手に力を！

～ご協力お願いします～

# タオマフ大作戦！



選手入場時 ... 高く掲げよう  
ゴールチャンス ... 大きく振り回そう

ここ長良川球技メドウでは、太鼓などの鳴り物を使った応援ができません。しかし、選手の息づかいが聞こえそうなほどグラウンドまでの距離が近く、目の前で繰り広げられる真剣勝負にきっと気持ちは高まるはず。ウズウズしてきたら「手拍子」や「タオマフ」（タオルマフラー）で選手を勇気づけましょう。たとえひとりのアクションは小さくても、隣の人と、前後の人と、みんなでいっしょに応援すれば、大きな力になって、選手だけでなくあなたのハートもさらに熱くさせること間違いなし。“メドウ劇場”では、観客のあなたも大切なキャストなのです。